

認知症高齢者グループホーム四季の空

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0992500017		
法人名	社会福祉法人同愛会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム四季の空		
所在地	那須塩原市二区町352-180 (電話) 0287-37-8871		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(平成21年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	6人	常勤6人(うち兼務2人), 常勤換算5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	・光熱水費—10,000円 ・個人で購入・使用した物品(おむつ等)—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,600円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月18日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	名		
年齢	平均 86.3歳	最低	76歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	那須中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人同愛会が運営するグループホーム四季の空は、平成18年4月に開設した認知症高齢者グループホームである。建物は木造平屋建ての1ユニットで敷地が広く、周囲には田畑があり、入居者と職員が畑づくりをする中で季節感を味わっている。日中は玄関に鍵をかけず、職員の見守りのなかで入居者の自由な生活を支えている。一方では、職員は入居者から調理の仕方等を教えてもらったり、入居者からいたわりの言葉をかけられ癒されている。管理者の交代があったが、職員間でケアの方針等の共有を図り、より高い質のサービスを目指して実践に取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者は外部評価、自己評価を振り返り(自己研鑽)の機会としてとらえ、全職員で自己評価の意義・目的を理解して改善点について、できることから取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は全職員で個々に評価を行い、話し合いをして管理者がまとめたうえで再度職員間で確認した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、管理者交代もあって、今年度は今のところ3回の開催である。構成は、入居者、家族、市職員、地域包括支援センター職員・民生委員となっている。会議ではホームの状況を報告したり、意見交換をしている。家族や地域に向けたお便りの発行、入浴回数、家族等が悩みについて話し合える環境づくり等、より良いホームづくりに向けた意見交換が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪れた際に声をかけ、入居者の健康状態や近況報告をしたり、要望を伺ったりしている。家族へのお便りを準備中である。苦情受付・対応の体制を整えており、重要事項説明書に苦情受付担当者、市・国保連の連絡先が明記されている。意見箱も設置されているが、現在までに意見や苦情は寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、回覧板まわしなどを行っている。地域の神社の祭りや行事等に参加している。野菜などをいただいたり、散歩時に言葉を交すなどして地域の方との交流を図っている。地域からの呼びかけが多いが、今後、ホームの実情を知ってもらうために広報誌等を作成して回覧板で回すなど、より積極的に働きかけをしていきたいと考えている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの思いを大切に、「地域の中で家庭的にその人らしく生活することを支えるケア」、「四季の空でよかったと思える支援」をホームの理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや毎日の申し送りでの話し合いを通して、理念を意識しながら日々のサービス提供場面等において支援にあたり、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板まわしなどを行っている。地域の神社の祭りや行事等に参加している。野菜などをいただいたり、散歩時に言葉を交すなどして地域の方との交流を図っている。	○	ホームとして積極的に地域活動に参加していきたいと考えている。地域住民の一員としてホームと地域の人々が支えあうような双方向関係をつくっていくために、例えばホームの行事等で交流の機会を増やしたり、広報誌等を作って回覧板でホームの周知を図っていくなど更なる取り組みの充実を期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価、自己評価を振り返り（自己研鑽）の機会としてとらえ、全職員で自己評価の意義・目的を理解して改善点について、できることから取り組んでいる。今回の自己評価は全職員で個々に評価を行い、話し合いをして管理者がまとめたうえで再度職員間で確認した。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、管理者交代もあって、今年度は今のところ3回の開催である。構成は、入居者、家族、市職員、地域包括支援センター職員・民生委員となっている。会議ではホームの状況を報告したり、意見交換をしている。家族や地域に向けたお便りの発行、入浴回数、家族等が悩みについて話し合える環境づくり等、より良いホームづくりに向けた意見交換が行われている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所とは必要に応じて連携を図っている。また、市の介護相談員派遣事業を利用している。	○	ホームの考え方や実情、取り組み等を積極的に伝え、ホーム運営の実態を共有しながらサービスの質向上に向けて共に取り組んでいける関係づくりを図っていくことに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪れた際に声をかけ、入居者の健康状態や近況報告をしたり、金銭出納帳を確認してもらっている。請求書と一緒にコメントを書いたりして送付しており、更にお便りの作成を準備中である。	○	ホームと家族の信頼や協力関係を深めていくためにも、また情報提供の方法や機会を増やすという意味でも、お便り作成の実現に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市、国保連の苦情相談窓口が明記されている。また、玄関に意見箱を設置している。職員は家族とのつながりを大切にしており、家族等に何でも話してもらえような雰囲気づくりに留意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来の異動・離職は少なくないが、職員が替わる場合には、入居者・家族に事前に説明をして入居者へのダメージを最小限に抑えるよう努めている。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人研修（採用時1ヶ月以内）、継続研修（年2回）・中堅研修（随時）等の研修の機会がある。その他、外部研修等、職員個々に学ぶ時間を設けている。	○	職員が他ホームの職員と交流する機会としても外部研修を計画的・継続的に利用していくことに期待したい。また、スーパーバイズの手法を取り入れるなど、ホーム内での学びを充実していくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、また市の地域密着型サービス事業者連絡会に加入しているが積極的な参加はできていない。	○	同業者同士のネットワークに加入していることを活かして、他のホームとの相互交流や勉強会等、サービスの質の向上につながる関係づくりにより積極的に取り組んでいくことに期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談があった場合は、職員が家庭や入院先等を何度も訪問し、まずは顔を覚えてもらうようにしている。本人や家族にわかりやすくホームのことを説明し、ホームを見学してもらい、お試し利用等もすすめている。本人が安心し納得して入居できるよう、本人の意思を尊重して対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と一緒に過ごす時間を大切にし、生活の技や生活文化の大事さを教えてもらったり、入居者からいたわりの言葉をかけられ癒されたりしている。職員が調理（材料の刻み方）など、入居者から教えてもらう場面もある。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、入居者の言葉や表情、行動から入居者の思いや希望を把握するよう努めている。また、困難な場合は家族の協力のもとで本人の意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が訪れた際に、本人、家族の意見や要望を聞き、それを踏まえて介護計画を作成し、説明をして同意を得ている。また、申し送りやミーティングの際に出た職員の気づきや提案を介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しは3ヶ月を目安としている。介護支援専門員によるモニタリングも同時に行い、その都度家族の同意を得ている。状態の変化があったときには本人、家族と話し合い、検討して適宜見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者一人ひとりのペース、その日したいことを把握し、入居者が主人公となって暮らせるよう見守り、一緒に生活しながら、本人、家族の要望に応じた柔軟な対応に努めている。		

認知症高齢者グループホーム四季の空


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。急な容態変化時の対応については、必要に応じて職員が同行して対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえて、希望に応じた支援をしていくことの必要性を感じている。重度化に伴う指針について説明し、終末期ケア、看取りについてはかかりつけ医、法人の介護マニュアルに基づいて、ホームでできることを職員間で話し合い、共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、個人情報保護法の理解や漏洩防止の理解に努め、適切な記録等の取扱いを心がけている。また、入居者一人ひとりの自尊心を傷つけないよう目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めていない。入居者一人ひとりのペース、その日したいことを把握し、入居者が主人公となって暮らせるよう見守りながら支援している。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が何を食べたいか、日々の関わりのなかで入居者と話し合いをして、献立を作成している。職員と入居者が一緒に食事をし、準備や後片付けを一緒に行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、おおよそ13:30～15:30の時間帯で支援している。希望に応じて就寝前18:00頃の入浴もできるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや畑づくり等、入居者が活躍する場面をつくっている。また、ドライブや外食等、月1回の気晴らしの機会も取り入れている。今後、更に入居者の活力を引き出す楽しみごとや、一人ひとりに合った役割の支援をしていきたいと考えている。	○	本人の生きがいになるような活動を提案していきたいと考えている。本人の思いや希望、得意なこと、今までしてきたこと等を活かして、入居者がより生き生きと生活できる支援を充実していくことに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の要望に応じて近隣の散歩をしている。馴染みの場所に出掛けたり、月1回程度のドライブや外食等をしたり、季節に合わせて外出するなど、外に出る機会を多くつくっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣に散歩に出掛けるなど、入居者一人ひとりの希望を大切にしており、また、日中は玄関の施錠をしていない。職員は入居者を見守りやすい位置での支援を心掛けている。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを整備して、年1回の自主避難訓練を実施している。来年度を目途にスプリンクラーの設置を予定している。今後、地域の方々に、いざというときの協力を働きかけていきたいと考えている。	○	いざという時にホームが地域に貢献できることなども検討しながら、いざというときに助け合える地域との関係をつくっていくことに期待したい。また、災害時の対策や防災を通して地域とより密着したホームになっていくことを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を取り入れながら栄養バランスに配慮して献立を作成している。また、食事水分摂取管理表を用いて、食事・水分の摂取量を把握し、適切な食事・水分の摂取ができるよう配慮をしながら支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は広く、畳部屋にはソファや長火鉢が置かれ、家庭的な雰囲気づくりがされている。入居者にとって使いやすい馴染みのものや、五感や季節感を意識的に採り入れるよう心掛けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の馴染みの物が置かれ、その人らしい居室づくりがされている。仏壇や洋服等が持ち込まれたりして、家族の協力を得ながら支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。